



秩父御岳山 ハイキング

2006年8月20日（日）秩父御岳山に登りました。標高1081メートル、歩行時間4時間、標高差686メートル、レベルは初級となっていました。これは、4月の武甲山（標高1295メートル、歩行時間4時間20分、標高差1055メートル、中級）よりは楽なはずだったのですが...

八王子駅から八高線で東飯能へ。ここで、西武線に乗り換えて、秩父鉄道直通の三峰口行電車に乗ります。終点の三峰口駅からバスで20分、落合バス停がスタート地点です。沢と交差しながら登る山道は、涼しげでスリルもあり楽しかったのですが、途中で杉の伐採のために新しく作られた道は、作業車の移動で最悪。こんな道、歩きたくもないが、引き返すわけにもいきません。ようやくたどり着いた尾根で昼食をとり、気分をリセットして山頂へ。ラジオのスイッチをオンにして夏の甲子園の決勝戦とともに下り始めます。下りの長いこと。野球が終わるのが先か、私たちが下り終わるのが先か？結局、延長16回まで戦った野球とほぼ同時に舗装路に出たのですが、バス停はさらに先です。よく見ればコースアウトしているし（でも遠回りではありません）。久しぶりにきつかった。でも、高校球児に負けてもいません（？）。



秩父御岳山は修行の山

7時45分、JR八王子駅横浜線ホームに集まったのは、桜井さん、加藤夫妻、横山さん、板垣さん、佐藤さん、町田の7名でした。...、小野さんの姿がありません。いったいどうしたのでしょうか？前回の「鎌倉ウォーク」ではぐれてしまったこともあり、少々気になるところですが、小野さんには小野さんの都合もあることから...

八高線のホームに移動して、8時1分の川越行に乗り、東飯能で降り、8時57分の秩父鉄道直通の三峰口行西武線電車に乗ります。終点の三峰口駅に10時10分到着。10時15分のバスに乗る予定でしたが、トイレなどで、次の10時29分のバスで移動して、10時50分、落合バス停で降りました。国道140号線を降りたバスの進行方向に100メートルほど歩くと、右手に普寛神社があり、ここが秩父御岳山への登山口になります。

普寛神社は、秩父御岳山の名付けの親である普寛上人をまつた神社で、山頂には奥社があります。普寛上人は、江戸中期1731年にこの大滝村落合に生まれました。34歳のとき、人心救済を決し修験の道に入り、厳しい修行を経て神仏両道の奥義を極め、各地に登山道を開きます。さて、元来、御岳山は長野県の木曽の御嶽山を指します。御岳信仰では、御岳山とは厳しい精進をした者が登ることが許された聖なる山でした。普寛上人は、62歳の時、江戸の御岳信仰の信者たちを連れて、この精進を無視して、王滝口から強行登山をして登山道を開きま



した。このことがきっかけとなり、聖なる御岳山が一般民衆に開山され、関東地方中心に多くの御岳講が広まったということです。

板垣さん転ぶ！

もちろん、私たちは、この神社に立ち寄ることなく、狭い山道へ侵入していきました。沢を右に見下ろしながら、いくつかの堰堤を越えて一気に高度を上げていきます。いつしか、沢は山道と同じ高さになり、勾配もなだらかになりました。そして、沢と山道は何度も交差して、ときに沢の中の石の上を、ときに腐って崩れそうな木の橋を渡ります。秩父御岳山という名前の割には、あまり人の入らない山のように、なんとなく荒れた雰囲気がありますが、逆にこれぞ修験道の山の匂いなのかもしれません（？）。



秩父というと前回の武甲山の印象が強いのですが、武甲山は下から眺める荒々しい風貌とは違って、登ってみるとなんと単調な穏やかな山でした。それに比べると秩父御岳山は、変化に富んでいて面白い。それに水の音が涼しげです。ところが、歩き始めて約30分、この沢と別れ、杉林の急勾配に変わります。ジグザグに淡々と上ります。こうなってくると暑さが応えます。一步一步が辛くなるその時です。ポキッ！「あ痛っ！」「大



丈夫？」板垣さんがうずくまっています。途中で拾って杖代わりにしていた木に体重をかけすぎて、木が折れてしまい、その時岩に右膝をぶつけてしまったのです。幸い大事にはならず、歩くことも可能なのでホッとします。

傾いた砂浜

ようやく、人に出会いました。落合から上り山頂まで行き、再び落合に下りる若者でした。彼によればここからが(も)大変らしい。元気な桜井さんと横山さんは、スルスルと上り出し、すぐ上の林道から声をかけますが、残された者はなかなかそうはいかないのです。立ち止まると、次の一步がなかなか出なくて…。林道にたどり着くと大きな新しいトンネルがひとつあり、その奥から人がひとりやって来ました。きのご狩りにやって来たそうですが、残念なことに収穫無しということ。軽トラックで帰って行きます。それを羨ましそうにみつめる板垣さん。



さて、ここからが現代の修験道でした。杉の伐採用に作られた新しい道は、標識こそあるもののハイカーのためのものではなく、伐採した木の運搬車のための道に他ならないのです。道は適度に広く、傾斜も車がひっくり返らない程度なのですが、道自体に何みなさ過ぎて、ひっかかりが悪くてとにかく歩きにくく疲れるのです。傾斜の付いた濡れた砂浜といった感じです。一步一步が短いのに、先の見通しが良いので進んでいる気がしない。しかも暑い。まさに忍耐！

悪戦苦闘して着いたところは山頂ではなく、山頂へ通じる尾根でした。時刻は13時15分、ここで昼食としました。加藤さんがラジオのスイッチを入れます。今日は、夏の甲子園の決勝戦、駒大苫小牧 vs 早稲田実業です。



いつまで続くのか

高校野球を聞きながらお弁当を食べ、14時に出発しました。気になるラジオはつけたままです。石や木の根で足場が悪い(さっきまでの道よりよほどマシ)急坂のくさり場を10分ほどで山頂に到着します。狭い山頂には、普寛神社の奥社が祀られ、なぜか鐘がありました。みんなで鐘を撞き、集合写真を撮り、強石方面へ下山します。時刻は14時30分。

急な下りにはロープが張られていて、それが終わると緩やかな尾根、下るだけだと思っていたと上りがあり、上りのあとにはロープの張られた急な下りと、さすが修験道の道です。ラジオから聞こえるアナウンサーの声と歓声を聞きながら高度を下げ、右側に登り口のあった落合を見下ろすと、まもなく林道に出ました。きのご狩りの人と出会ったトンネルから続く道でした。林道に逃げたくもなるのですが、地図を見ると近道どころ





かともんでもない方向に伸びています。再び山道、急なすべり台のような尾根道です。横山さんと桜井さんは走った方が楽と先に行ってしまいました。慎重に下ること約20分、“杉の峠”に到着しました。目印のあずまやは強風に吹き飛ばされて崩壊していました。道を塞ぐ屋根をくぐって強石を目指して進みます。薄暗い杉林の中をジグザグに下ります。下を見るとまるで底なしの杉林、いったいいつまで続くのだろう？延長戦に入り、出塁して期待させては得点できない高校野球も。

バス停まで30分！

いいかげん脚の踏ん張りもきかなくなりそうなころ、高校野球は延長16回を戦い抜き再試合が決定しました。そして、私たちもようやく人里に下ることができたのですが、“強石バス停まで30分”なる場所でした。地図で確認すると、どうも、杉の峠あたりで道を間違えてしまったようです。でも、遠回りしたわけでもなさそうですし、先が見えていますから...

舗装路をだらだら歩けばバス停に着くはず、と歩いていると「ここに標識があるよ！」と加藤さんが叫んでいます。戻ってみると確かに強石バス停を案内する標識があり、民





| | | |
|------|----------|---|
| 町田行弘 | 229-1103 | 神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415 |
| 桜井利子 | 194-0001 | 東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591 |
| 加藤忠 | 194-0033 | 東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949 |
| 加藤純代 | 194-0033 | 東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949 |
| 板垣実 | 194-0032 | 東京都町田市本町田 2577-ホ-22-101 042-793-1271 |
| 横山和明 | 195-0062 | 東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662 |
| 佐藤忠夫 | 192-0364 | 東京都八王子市南大沢 2-12-3 0426-76-6246 |

家の脇に道があります。曲がりくねった舗装路をショートカットするようにハイキングコースが作られていました。そして、17時過ぎ、ようやく下りた人里から確かに30分、強石バス停に到着しました。バスは17時22分、まだ少し時間があります。そして、バス停の前には、営業しているとは思えないのだけれど、営業している酒屋のようなお店があります。中に入ってみると、大きな冷蔵庫の中に、適正在庫(?)らしい、少しのビールがありました。「ちょっと分けてもらえませんか?」という感じでビールを購入して飲み干します。定刻にバスがやってきて、三峰口で慌ただしい乗り継ぎをして、御花畑駅から西武秩父駅まで歩き、当然、仲見世で乾杯! 秩父の夜は更けていきました。

